

第32課 ショートメッセージ 「良い企てへの備え」

聖書箇所：ネヘミヤ2：11－20

暗唱聖句：天にいます神御自ら、わたしたちにこの工事を成功させてくださる。

(ネヘミヤ2：20)

今週の聖書教育誌の週題は「良い企てへの備え」です。

ハルカヤの子、ネヘミヤはペルシアのアルタクセルクセス王の献酌官として信望の厚い榮譽ある職に就いていました。先週で学びましたが兄弟の一人ハナニが幾人かとユダから帰ってきたのでネヘミヤは捕囚の民がエルサレムに帰還し、神殿再建後はどのように暮らしているか、信仰生活を送っているか気がかりでしたので尋ねたのでした。

ネヘミヤ 1:3 彼らはこう答えた。「捕囚の生き残りで、この州に残っている人々は、大きな不幸の中にあって、恥辱を受けています。エルサレムの城壁は打ち破られ、城門は焼け落ちたままです。」

これを聞いたネヘミヤは心を痛め祈り、エルサレムへの想いが与えられました。ネヘミヤの願いを受け入れたアルタクセルクセス王は治世第二十年(前445年)に、エルサレムの総督として派遣しました。

当時はエルサレムを含むユダの地はペルシアの属州として統治されていました。捕囚を免れてユダの地にとどまりサマリア人と呼ばれた人たちも「その地の住民」でした。アルタクセルクセス王に総督として任じられた事はエルサレム周辺をこれまでの州からは独立したひとつの州として認知されたものであったと言えます。

ネヘミヤはエルサレムに滞在した12年間の間に、政治家としてエルサレムのイスラエル社会の秩序を再構築するために力を尽くしました。とりわけ、彼が着任後、すぐに着手したのがエルサレムの城壁の修復でした。第二神殿は前516年に完成していましたが、城壁や門は荒れ果てたままでした。しかし、ネヘミヤは機敏に行動して、わずか52日間で工事を完成させたのです。こうして約150年間もの間、荒れ果てた城壁は再建されたのです。

ネヘミヤ 6:15～16 城壁は五十二日かかって、エルルの月の二十五日に完成した。わたしたちのすべての敵がそれを聞くに及んで、わたしたちの周囲にいる諸国の民も皆、恐れを抱き、自らの目に大いに面目を失った。わたしたちの神の助けによってこの工事がなされたのだということを悟ったからである。

ネヘミヤは優れた政治家であり行政に通じた役人でもありました。また、真なる神に祈る人でもありました。彼は用意周到に城壁再建のための木材などの資材を調達していました。また、彼はユダの貴族たちがサマリア人と通じており、妨害工作をしていくことが分かっていました。再建するための資材や石工、工事に携わる人たちが充分であるか綿密に調べて計画し、準備していたに違いありません。エルサレムに着いて三日間過ごしてから彼は行動を始めます。三日間をどうしていたかは聖書は語りません。長旅の休息、祈り、そして城壁再建の計画を練っていたとも考えられます。後は、彼の目で実際の城壁の状態を確かめることでした。

2:13～15 夜中に谷の門を出て、竜の泉の前から糞の門へと巡って、エルサレムの城壁を調べた。城壁は破壊され、城門は焼け落ちていた。更に泉の門から王の池へと行ったが、わたしの乗っている動物が通る所もないほどであった。夜のうちに谷に沿って上りながら城壁を調べ、再び谷の門を通過して帰った。

彼は朽ち果てた門や城壁の状態を確認すると、工事の分担を取り決めました。区長たちには各門の補修を担当させ、祭司や役人もそれぞれに役割を与え、また警護する者も備えました。まさにイスラエルの民がひとつとなって事業を始める計画を立て上げたのでした。

2:17 やがてわたしは彼らに言った。「御覧のとおり、わたしたちは不幸の中であえいでいる。エルサレムは荒廃し、城門は焼け落ちたままだ。エルサレムの城壁を建て直そうではないか。そうすれば、もう恥ずかしいことはない。」

まさに十分に資材を準備し、適材適所に作業者を割り振り、サマリア人たちの妨害の懸念のためには警護する者まで用意しました。この計画を聞いたイスラエルの人たちは必ずや素早く安全に城壁の修復が出来ると確信したのでしょうか。ネヘミヤはそれが自分の立てた計画ではなく、祈りの中から神に示されたものであると確信して民に語りました。

2:18 神の御手が恵み深くわたしを守り、王がわたしに言ってくれた言葉を彼らに告げると、彼らは「早速、建築に取りかかろう」と応じ、この良い企てに奮い立った。

誰もが神の祝福のなかで、備えられた「良い企て」であると確信して力がひとつとなり奮い立ったのです。だからこそ僅か52日間という短い期間で、敵対する者たちが妨害するいとまもなく完成することが出来たのでしょうか。現代でもネヘミヤ時代の石積を見ることが出来ます。

日常生活・信仰生活においても、準備も備えもしないで「苦しい時の神頼み」のような想いに捉われることが私にはあります。このネヘミヤの物語から私たちは願いと祈りと同時に必要な準備をする、出来る限りの備えをしていくことが大切で欠かせないことを覚えます。そこに私たちがひとつとされ主からの力が与えられることを教えられます。

私たちの教会も「生み出す教会」として準備し祈り備えて、赤塚教会、志村教会、茗荷谷教会、ふじみ野教会を建て上げてきました。必要な献金が献げられ、祈りの中で開拓する地が与えられ、愛する兄弟姉妹を派遣してきました。十分な時間と準備と計画した「良い企て」であったと思われています。

ポストコロナに向かって新しいまだ見ぬ兄弟姉妹とキリストとの出会いと救いが実現する福音宣教の働き場が、さらに主の祝福のうちに準備と備えのうえで与えられますように祈ってまいりましょう。

● 分かち合い

- ・ 祈っても何も起こらない、とにかく行動だ。と考えたことがあなたにはありますか。私にはあります。祈りの力をあなたはどんなときに感じておられますか。
- ・ 何事にも時があるものだと思われています。「待て」と神から示された時があなたにありますか。

(担当：H.G.)